

# 序 文

崇城大学（旧名：熊本工業大学）には大学院博士課程を持つ2つの生物系学科（応用微生物工学科，応用生命科学科）がある。これらの学科では実験実習を重視し学生に機器分析を教えているが，理解しやすく，かつ総合的にまとめた教科書が見つからずながいあいだ難儀していた。大学学部向けの機器分析の教科書は数多く出版されているが，工学・薬学・理学部の専門家による著作が大半である。これら既刊書は分析原理の理論的記述から語り始められており，ライフサイエンス系の学生対象の教科書として使用してみると，使い勝手のよいものではない。たまたま，三共出版・石山慎二常務に相談したところ，“それではそのような本を出版してみませんか”，との話しが本書出版の出発点である。そこで，両学科内の担当者で企画を練ったところ，“崇城大学だけではなかなか無理で，できればその道の権威の先生方にご援助いただき，他の大学でも利用してもらえるような教科書にしたい”，との結論になった。

本書の著者は工学部や農学部などの研究分野で，分析機器を駆使してライフサイエンスあるいはバイオ領域の研究を展開し，現在第一線で活躍中の方々である。それぞれ得意分野の機器分析に精通され，いわば分析機器のハイエンドユーザーである。本書ではユーザーの視点から，① その分析法で何ができるか，② 分析機器・分析法の解説，③ 分析あるいは操作する上でなにが重要か，④ データ解析のポイントは，について解説を行なった。

なお，図表として使用した一部については，国内外の多くの分析機器メーカーあるいは既刊書より使用させていただいたものであり，ここに厚く御礼申し上げます。

最後に，本書の出版にあたり終始たいへんなお世話をいただきました三共出版に厚く感謝いたします。

平成16年 夏

監修・編・著者を代表して  
村尾 澤夫